

津久見市の小児医療・小児保健の向上を目指して

こどもの病気対策法⑨②

— 広汎性発達障がい(自閉症)について —

津久見中央病院 リハビリテーション科 言語聴覚士 川野 海来

こんにちは。津久見中央病院の言語聴覚士の川野海来です。今回はリハビリに来院されているお子さんの中にも多い、自閉症についてお話をしようと思います。

自閉症は広汎性発達障害の一つです。自閉症という言葉は耳にすることも多いと思いますが、広汎性発達障害という言葉は初めて聞く方も多いかもしれません。広汎性発達障害の中には自閉症・アスペルガー障害・レット障害・小児期崩壊性障害・特定不能の広汎性発達障害の5つが含まれます。

自閉症とは、自閉と言う言葉からイメージされるような「自ら心を閉ざしている病気」ではありません。また、親のしつけや育て方の悪さが原因ではないのです。はつきりとした原因は不明ですが、脳の機能障害であると考えられています。症状が軽い人から重度の方まで幅広く、発生頻度は症状が軽い人たちまで含めると100人に1人いると言われています。性別では男性に多くみられています。

中核的な症状としては①社会的相互交渉の質的異常②コミュニケーションの質的異常

③興味や活動の対象・範囲の限局、常同的で反復的な行動の3つの徴候で3歳以前に認められることとされています。では、具体的にはどのような症状がみられるのでしょうか。

1歳くらいまでに、愛着行動の発現が乏しい様子がみられます。大人が赤ちゃんをあやそうと思つて抱っこをしますが嫌がったり、人見知りをしなかったり、あやしても反応しないというような症状がみられます。また、音や光に敏感で、奇妙な手指の動きをしたり、睡眠のリズム障害があるといった特徴を示すことが多くあります。

3歳のころには、ほかの子どもに無関心で、友達の真似をするような行動がなかったり、手をふりながら走り回ったり、耳を押さえたりすることもみられます。また、こだわりが強く、物を置く位置、歩く道順、着替えなどの手順、日課やスケジュールなど決まったやり方にこだわり、それが変わると不安や抵抗を示します。ミニカーやブロックなどを一列にきれいに並べることが好きだったり、回るものや模様、マークを好みます。

言葉の遅れもみられ、なかには話せない子も多いのですが話せるようになっても、呼びかけられた言葉そのまま返すオウム返しを使うことも多くみられます。また、特有のイントネーションで話すことも特徴的です。

このように小さな頃から出来るだけ早い段階でこうした特徴に気づくことが、よい支援・指導につながっていきます。何か気になる点や不安なことがあればいつでもご相談下さい。

自閉症 よくみられる特徴

自己刺激的行動をする

- ・手をヒラヒラさせて走り回る
- ・自分でぐるぐる回る
- ・つま先立ち歩きをする

反復的な行動が好き

- ・上半身を前後にゆすったりする

こだわりがある

- ・ものを置く位置、歩く道順、着替えの手順、日課やスケジュールなど、決まったやり方にこだわる。それが変わると不安や抵抗を示す
- ・ミニカーやブロックなどを一列に並べたりするのが好き。回るものや模様、マークを好む

対人関係を築けない

- ・人と視線を合わせない
- ・周囲の人と共感的な関係を築くのが困難
- ・友達の気持ちを理解できず、友達と協調して遊ぶことができない
- ・ごっこ遊びが苦手

言葉の発達の遅れ

- ・なかには一生涯話さない人もいる
- ・話せるようになっても尻上がりの特有のイントネーションがあったりする

奇妙な話し方をする

- ・反響言語(エコラリア)(オウム返し)「お名前は?」「オナマエハ?」
- ・単調で助詞が入らない